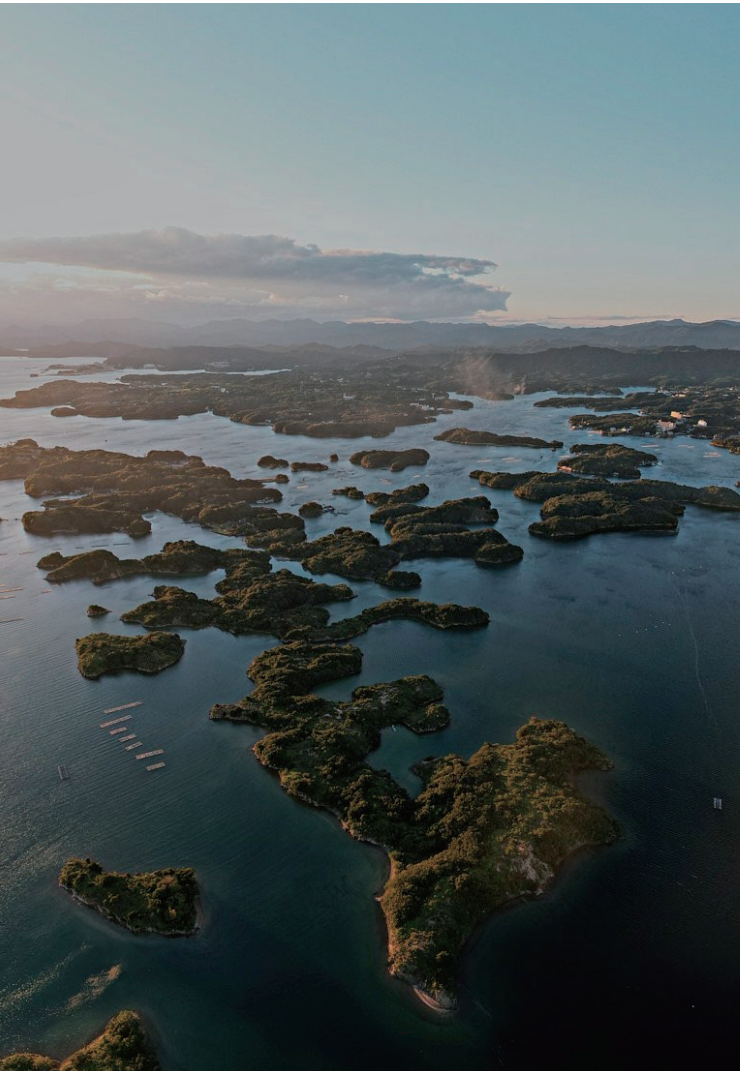
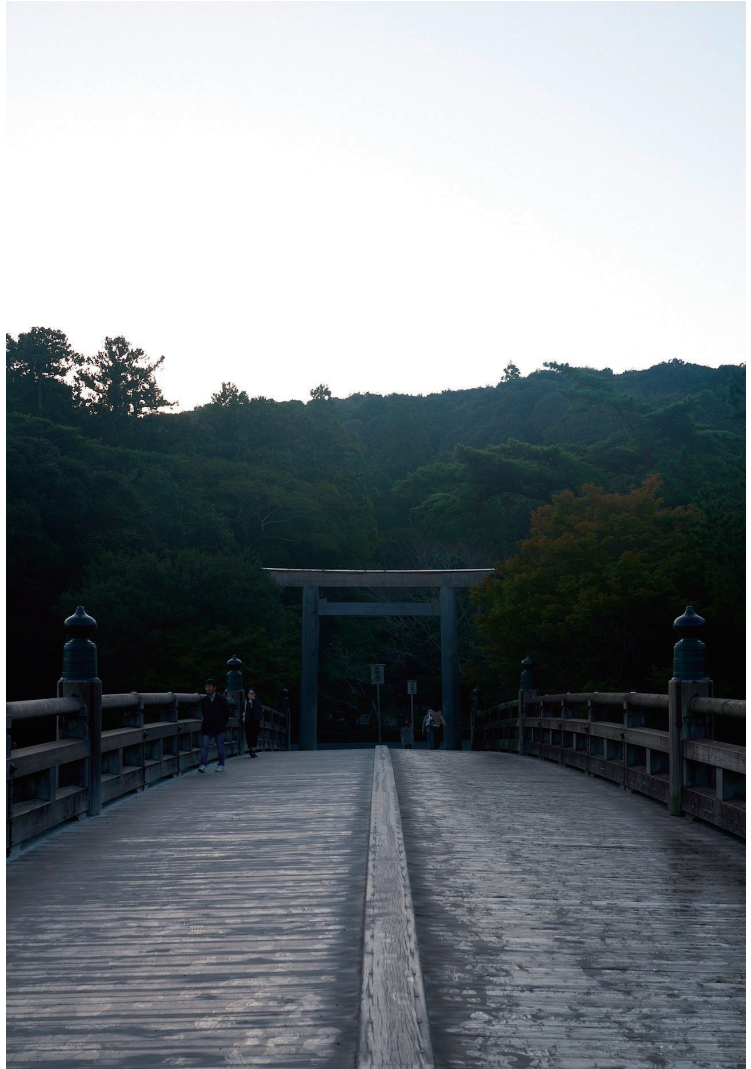
「自然」「文化」「産業」
海と祈りの聖地 伊勢志摩

伊勢志摩

ISESHIMA

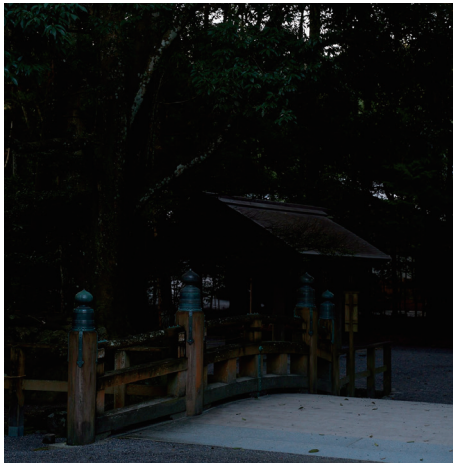
公益社団法人
伊勢志摩観光コンベンション機構
"Visit ISESHIMA"Bureau



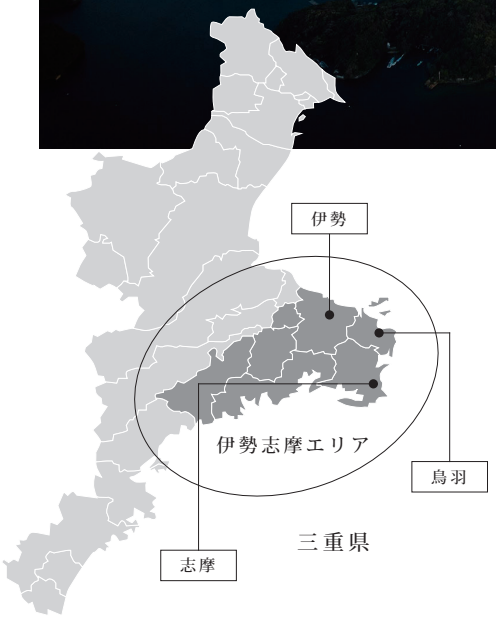


歴史と伝統に彩られた 伊勢志摩の魅力

伊勢神宮は天照大御神と豊受大御神をお祀りする日本最高の聖地であり、2000 年以上の歴史を持つ神社です。内宮・外宮の壮大な境内は清らかな自然に包まれており、参拝者は心を落ち着かせることができます。伊勢志摩地域では、参拝後の「おはらい町」「おかげ横丁」なども人気で、江戸から明治時代の町並みを再現したエリアには、和菓子や伊勢うどんなど地元のグルメを楽しめるお店が立ち並びます。



海の産業の隆盛として海女漁があります。海女たちは素潜りでアワビやサザエなどを採取し、その伝統技術と文化が現代にも受け継がれています。鳥羽市や志摩市の「海女小屋体験施設」では、海女さんから話を聞き、地元で水揚げされた海産物を焼いてもらって食事もできます。また、真珠養殖発祥の地でもあり、「ミキモト真珠島」では真珠の歴史や養殖方法を学べます。それ以外にもこの地域には真珠取り出しを体験できる施設もあります。



伊勢志摩は三重県南部に位置する地域で、伊勢神宮をはじめとする歴史的・文化的な観光地、豊かな自然、美しい海岸線といった魅力に溢れています。国立公園に指定されているエリアでもあり、豊かな生態系と自然の景観が保護されています。自然と信仰が深いつながりを持ちつつ、風土と文化を創り上げてきた伊勢志摩は、今日課題とされるサステナビリティの原点、伝統と文化、未来に向けた自然との共存が人々の営みの中に息づいており、どこか懐かしく、それでいて新しい魅力に溢れる場所です。

伊勢志摩は日本の歴史や文化、自然の美しさを体験できる魅力が詰まったエリアです。観光、グルメ、リラクゼーションなど、訪れる人々がさまざまな体験を通じて「日本らしさ」を感じられる場所として、多くの日本人観光客から愛されています。

伊勢志摩の自然

海洋資源の保護

伊勢志摩はリアス海岸や豊富な海産物に恵まれ、真珠やアワビ、牡蠣などの養殖が盛んな地域ですが、持続可能な漁業と自然環境の保護が重要視されています。海洋資源を守りながら観光や産業を推進するために、漁業資源の管理、真珠の養殖における環境保護、海女文化の保護と持続、海洋プラスチック問題への取り組みなど、地域の自然と共に生活してきた人々の知恵が、環境保護の基盤となり、観光や産業の中でそれが生かされています。

伊勢志摩国立公園

伊勢志摩国立公園は、自然の織りなす美しい海岸線に加え、伊勢神宮を中心とした歴史的な文化、そして真珠養殖や海女文化といった伝統産業をはじめとした住まう人々の営みが共存し続けています。豊かな自然と地域文化の中で、訪れる人々が癒しと発見を感じられる場所であり、自然と文化を体感できる日本でも貴重なエリアのひとつです。

リアス海岸

伊勢志摩の海岸線は、三重県南部の志摩半島沿岸に広がる独特な形状が特徴です。伊勢志摩国立公園の絶景スポットの一つである英虞湾は、リアス海岸によって美しい入り江や小さな島々から構成されています。また自然の景観美だけでなく、多様な生態系の宝庫でもあり、観光資源や水産業の面でも重要な役割を果たし、複雑で美しい地形が観光と養殖業の両方に豊かな恩恵をもたらしているのです。横山展望台では英虞湾の全景を一望でき、入り組んだ海岸線と青い海のコントラストが楽しめます。夕日や早朝の時間帯に訪れると、湾内が美しく輝く絶景が広がり、訪れる人を魅了します。その美しい景観を独り占めできる多様な宿泊施設が多く点在しています。

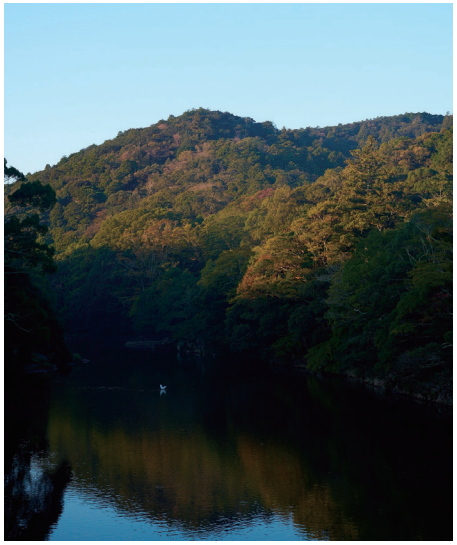
伊勢志摩の文化・歴史

伊勢神宮

伊勢神宮は「日本人の心のふるさと」と呼ばれ、中核となる二つの本殿があります。一つは内宮と呼ばれ、太陽の神である天照大御神が祀られています。もう一つの本殿である外宮には、食と産業の神である豊受大御神が祀られています。他の神社との大きな違いは、縁結びや学業などの成就のため参拝しますが、伊勢神宮では、人々は日々の感謝を伝え、世界の平和を願うため参拝するという点です。

式年遷宮

20 年に一度、社殿や御装束神宝を新しく造り替える「式年遷宮」が行われます。この伝統は 1300 年以上続いており、神社の清浄と新生を象徴しています。式年遷宮は、建築技術や伝統工芸品が次世代へと受け継がれ、職人たちによる技能の伝承など、日本文化と歴史の重要な一部です。伊勢神宮は自然との共存が根底にあり、解体された古い木材は宇治橋の内外に位置する鳥居や日本各地の神社などの社殿を造り替えるための木材となります。こうして何十年もかけ一つの木材は年月とともに形を変え、役割を変え、人々の生活を見守り、寄り添い、役目を全うします。さらに神宮では 1923 年から将来の遷宮を見据え、御造営用材の自給自足を目標として「神宮森林経営計画」を策定し、200 年生の檜の育成に取り組み、約 100 年が経過した今でもその計画は続いています。



伊勢志摩の文化への波及

伊勢志摩の文化は、信仰や漁業、工芸といった日本独自の伝統を基盤としながら、国内外に広がってきました。古くから地域の自然環境と共生し続けてきた文化や産業が現代の観光やエコツーリズムのモデルとなっているほか、建築様式、郷土料理など多岐にわたり影響を与えています。

伊勢志摩の産業

海の産業の隆盛

海女文化は、古くから受け継がれている伝統的な漁業文化です。海女は、素潜りで海中に潜り、アワビやサザエ、海藻などを採取する漁師を指します。この文化は日本で数千年の歴史を持ち、伊勢志摩の地域文化として深く根付いています。必要以上に資源を獲らず、アワビやサザエの漁期を守り、稚貝を放流するなど、自然と共存しながら資源の保護を意識した持続可能な漁業として漁を行います。その取組があるからこそ、地域内で多様な海産物が流通し、旅行者の舌を唸らせる料理となって提供されています。

真珠の養殖

伊勢志摩は、世界中で知られる MIKIMOTO ブランドの創業者である御木本幸吉が世界で初めて真珠を養殖した地です。伊勢志摩での真珠養殖は、地元の豊かな自然環境と養殖技術が結びついたもので、国際的にも評価されています。英虞湾は水温や栄養分が豊富で、真珠を育てるのに理想的な環境が整っています。海中に浮かぶ養殖筏は、真珠養殖独特の風景であり、英虞湾のシンボルにもなっています。産業にとどまらず、地域の歴史、文化、自然保護の象徴として日本国内外で評価される高品質なアコヤ真珠の生産は、伊勢志摩の自然環境と、代々受け継がれてきた養殖技術の賜物です。また、一部では “Pearl Diver” とも呼ばれる海女は、真珠養殖産業において、技術発達により現在では必要性が無くなりました。しかし、養殖成功には、海藻や貝をとる彼女たちが不可欠でした。

株式会社 REMARE（リマーレ）では海洋プラスチックの回収から製品開発までを一貫して樹脂循環を行っています。日本の海洋プラスチックゴミの 6 割を占める使用済み漁具の問題を全国的に解決すべく、各地の漁業者とも提携し本来焼却される運命にあった廃プラスチックを、マテリアルサイクルすることで CO2 削減にも寄与しています。

株式会社 REMARE（リマーレ）

環境適応型農業技術の開発を行う
株式会社 CULTIVERA（カルティベラ）。
「海水農業」を研究し、海水から野菜を育てることに世界で初めて成功しました。次の開発として、気候変動や難民問題といった社会課題に対するひとつの解とし、海の新たな可能性開拓に最先端の科学技術をもって「海上農業」の開発に取り組んでいます。

株式会社 CULTIVERA（カルティベラ）

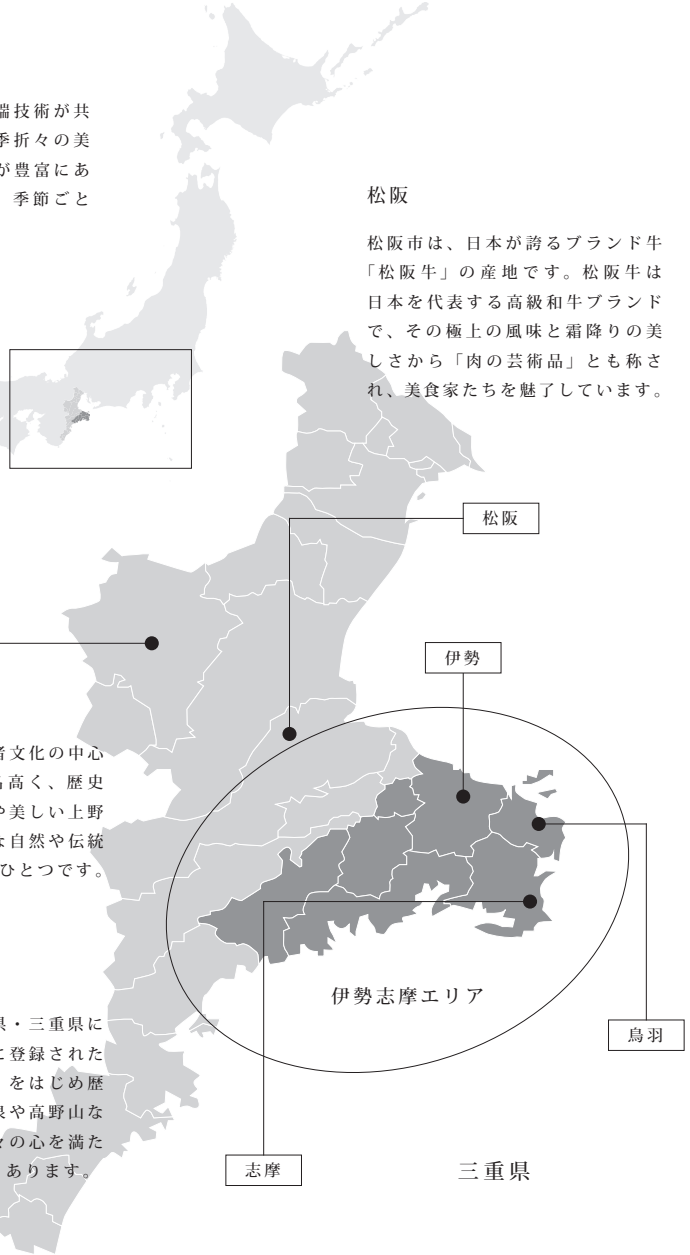
アクセス

日本

日本は、古代の伝統と最先端技術が共存する魅力的な国です。四季折々の美しい自然や歴史的な建造物が豊富にあり、春の桜、秋の紅葉など、季節ごとの風景が旅人を迎えます。

松阪

松阪市は、日本が誇るブランド牛「松阪牛」の産地です。松阪牛は日本を代表する高級和牛ブランドで、その極上の風味と霜降りの美しさから「肉の芸術品」とも称され、美食家たちを魅了しています。



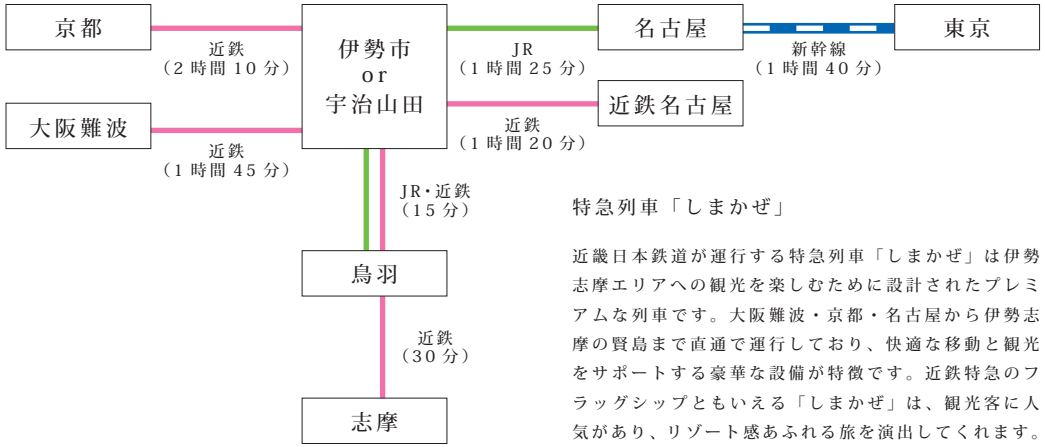
伊賀

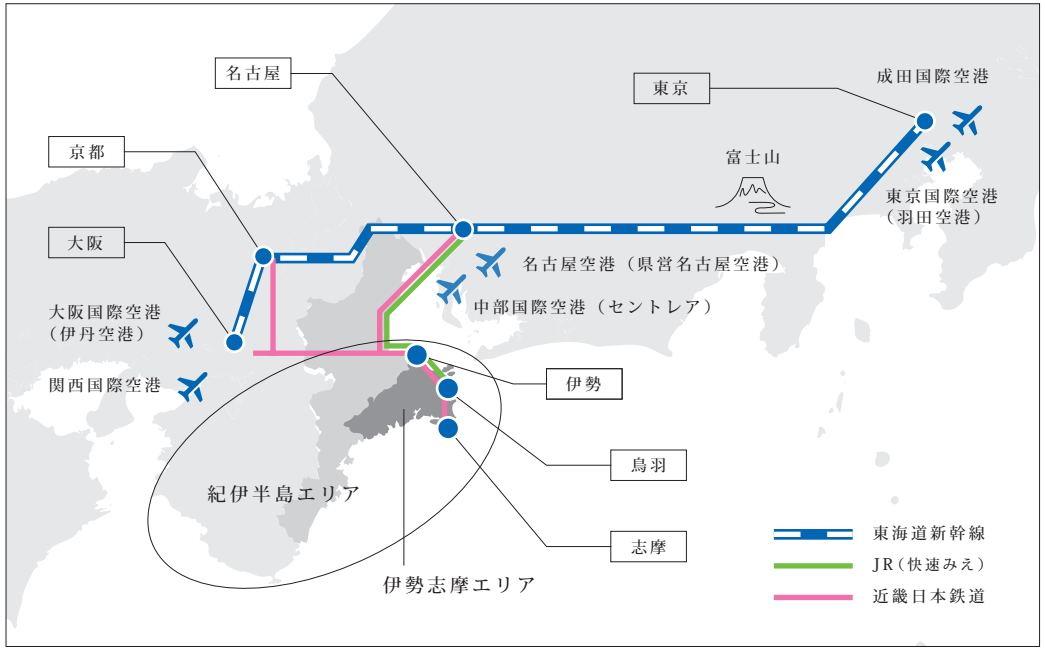
伊賀は、日本の伝統的な忍者文化の中心地で、「忍者の里」として名高く、歴史的な「伊賀流忍者博物館」や美しい上野城があります。伊賀の豊かな自然や伝統的な陶芸「伊賀焼」も魅力のひとつです。

紀伊半島エリア

紀伊半島は和歌山県・奈良県・三重県にまたがる地域で、世界遺産に登録された歴史ある参詣道「熊野古道」をはじめ歴史的な巡礼地から、白浜温泉や高野山など癒しの場まで、訪れる人々の心を満たしてくれるスポットが数多くあります。

※新幹線（のぞみ）、近鉄特急を利用した場合



特急列車「しまかぜ」

近畿日本鉄道が運行する特急列車「しまかぜ」は伊勢志摩エリアへの観光を楽しむために設計されたプレミアムな列車です。大阪難波・京都・名古屋から伊勢志摩の賢島まで直通で運行しており、快適な移動と観光をサポートする豪華な設備が特徴です。近鉄特急のフラッグシップともいえる「しまかぜ」は、観光客に人気があり、リゾート感あふれる旅を演出してくれます。